

開講年度	令和 8 年度	開講課程	博士後期課程
授業名	形態機能医学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 3 年次
必修・選択の別	選択	単位	1 0 単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(システム神経生理学) シナプス伝達、中枢疾患 (統合分子生理学) 細胞イメージング (機能調節薬理学) 薬物療法、疾患モデル (分子病理学) がん		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(システム神経生理学) 教授 小林克典、講師 井辺弘樹 (統合分子生理学) 教授 中田正範、准教授 廣野守俊、講師 稲葉秀文 (機能調節薬理学) 教授 西谷友重、講師 納富拓也、講師 陳 以珊 (分子病理学) 教授 江幡正悟、講師 及川恒輔、講師 中西雅子	
	薬		
授業の概要	システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における高度先進医療・地域保健医療の課題に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。		
到達目標	(システム神経生理学) 疾患モデルを含む実験動物を対象とした中枢機能解析について、実験計画を立案及び遂行し、研究の成果について発表できる。 (統合分子生理学) 生理学の実験手法を用いてデータを収集し、解析・考察する能力を涵養することで、研究成果を発表する。 (機能調節薬理学) イオンシグナル制御異常による疾患の発症機構を解明するとともに疾患モデルを構築し、治療薬の探索を行うことができる。 (分子病理学) がん細胞の転移能亢進における分子メカニズムを明らかにする技術を修得し、遺伝子発現解析などを通じた治療標的の同定を行うことができる。		

授業計画	<p>(システム神経生理学) 正常動物又は疾患モデルに電気生理学、生化学、行動学的手法を適用して中枢神経機能を解析する。関連研究の動向を踏まえて実験結果について議論を行い、実験計画の検討と論文作成の指導を行う。(小林克典/井辺弘樹)</p> <p>(統合分子生理学) 疾患モデル動物を用いた生理学的研究によりデータを集積し、文献の収集と議論を行い、研究結果の解析と考察を進めて論文作成を指導する。(中田正範/廣野守俊/稲葉秀文)</p> <p>(機能調節薬理学) イオンシグナル異常による疾患の発症機構の解明と薬物療法についての研究指導を行う。またデータ収集・解析、英文での執筆など論文作成の指導を行う。(西谷友重/納富拓也/陳以珊)</p> <p>(分子病理学) がん細胞の悪性形質獲得に関わる分子メカニズムの解析：遺伝子発現解析などを通じ、がんの治療標的の同定について指導する。(江幡正悟/及川恒輔/中西雅子)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(システム神経生理学) 特に指定しない。</p> <p>(統合分子生理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(機能調節薬理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(分子病理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>